

## 目次

- 2 **巻頭エッセイ**  
なかなか話せるようになれません
- 4 **過去問に学ぶ**  
4級・3級語順選択・整序問題の解き方
- 6 **語彙をふやそう**  
体育・スポーツ
- 8 **看图学慣用語**  
絵で見る慣用語(6)
- 10 **紛らわしい文法表現**  
“虽然…，但是…”と“虽然…”、“但是…”
- 12 **中国語語彙学習の話**  
単語の長さ
- 14 **新しいことばと古いことば**  
中国人に好まれる数字語と嫌われる数字語
- 15 **読者の広場**  
西安講演会から

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事，写真，イラスト等を無断で複製・  
複写・転載することを禁じます。

## なかなか話せるようになれません

日本中国語検定協会評議員・霞山会東亜学院 西井和弥

社会人を教えているとよく聞く学習者の「訴え」です。

自分自身はこと学習に関して暢気だったせいか、あまりこんな風に焦ったことはなかったのですが、確かに学習者としてこう言いたくなるのはごく自然なことでしょう。でも学習歴30年（年齢がバレそう）のわたしが、教師としてより、むしろ先輩学習者として後輩たちに言えることは次の二つです。すなわち、

「案ずるな、自分で思うほどあなたの出来は悪くない」

「出来るまでには、やはりしっかり時間をかけなさい」

一つ目については問題はありませんね。ところでこれは二つ目にも通じます。要は学習・練習を積んでいなければ、少々きつい物言いですが、「話せない」は当たり前というわけです。

学習では文法理解も単語力強化もピンイン暗記も漢字練習もすべてが重要ですから、「これらよりもっと重要なものがある！」と言うのではありませんが、発音練習と発話練習も同じように重要です。これを怠っている学習者が意外に多いようです。なぜなのでしょう。

考えられる原因は、この練習が大変且つ退屈であること、時間がかかること、効果が自覚しにくいこと等でしょう。こと社会人学習者にとってはどれもテンションの下がることばかり…。一方音読が好きな人は大抵上手なようです。

考えてもみてください。言葉を覚える際に、「たくさん口にする」は必要不可欠です。われわれ日本人が普通に日本語を話せるようになったのは、赤ちゃんの頃から常に周りの真似をして舌をもつれさせながら繰り返してきたことの賜物なのです。他にこんな例もあります。たとえば後輩の結婚式でスピーチを頼まれたとしましょう。昨今は原稿なしのアドリブで堂々とマイクを握る方も少なくないのでしょうか、もしきちんと原稿を書いたとしたら、あなたはどのように暗記しますか。何度も何度も読んで覚えるしかないでしょう。それもブツブツつぶやきながら、つまり声を出しながらです。母語でさえこんな具合ですから、外国語ならなおさらです。

話せるようになるには「発声・発話練習」が必須です。文法や単語の「意味や理屈がわかった」をその内容習得の終点と考えていませんか。これはあくまでも中継点にすぎません。肝心なのはここからの「声出し」と「繰り返し」です。

「わたしの習っている教室で、こうした発声練習を先生は全然してくれません」という方がいらっしゃるかもしれませんが、少しだけ教師として代弁させていただきます。あなたの先生がまったくこの種の練習を指導しないのなら、正直その先生は問題です。要求されてはいかがでしょう。しかし、発話の反復が3～5回で終わりという場合、これはある程度やむを得ない回数ともいえるかもしれません。先生は先生で、「自

分がいるこの場でしかできない方法をできるだけやろう」と思って授業に臨んでいます。授業では要領を教えて、一人ででもできるようになったら放課後自分で練習してほしいのです。「せっかく先生がいるのに、自分一人でできる練習に時間を割かれるのはもったいない」と考える学習者も結構いるからです。それに先述しましたが、この種の練習はある意味退屈でもありますから、教室管理においてはただひたすら発声というわけにもいきません。何でもそうかもしれませんが、こうした地味な作業では自主練習という孤独も覚悟しなければならないということでしょうか。

「話せない」は初級者・中級者に限った悩みではありません。上級者にとってはより深刻です。わたしのところによくこういう相談が舞い込みます。「聞くのは問題ないのですが、思うように話せません」と言うのは、大抵留学や駐在等で数年中国に滞在していた方々です。そういう時わたしはまず適当な文章を1分弱聞かせて大意を言わせませす。多くはまあまあの答えをします。次に、一行一行聞かせて訳させませす。すると途端にガタガタ、聞きとれていません。大意がとれたのは文章全体が醸し出す雰囲気から理解する「想像」の産物でした。この想像力は決して無意味ではありません。いくつかの単語がわからなくても全体的な意味がくみ取れることはある意味大事なことです。しかし学習は漏らさず緻密に行うべきです。「聞きとれるけど話せない」など厳密に言えばあり得ません。「話せなければ聞きとれない」し、「話せることしか聞きとれない」のです。大切なのは「定着させる」ことです。

上級者が欲する「話せる」の実現には、一にも二にも語彙・表現力の強化。そのためにわたし自身の実践法を若干紹介します。第一に「多読・乱読」。無限にある単語や表現に触れるためにはえり好みなどしてはいられません。出会いの機会は多く持つべきと思って、ジャンルにこだわらず手当たり次第という感じです。次に「話す前の内容把握」。「話せない」多くの人の特徴に、「実は何を話そうかまとまっていけない」ことが挙げられます。特に、「何を話すのか」よりも「知っている言葉で話せるのは何か」が優先されているケースが実に多い。これではうまく話せるわけもなく、進歩もありません。もちろん自分の言いたいことを表現する時には未知の壁もあって、場合によっては恥をかくこともあります。これが次の成功に生かされる何よりの収穫なのです。こうした経験や失敗こそが最高の教材です。自分にとって何が未知なのかを知れば、何を覚えるべきかもはっきりし、それらがすべて自分の発想に基づいている点も「話せる」ようになるのにとっても有益といえます。そのために中国語で話す前に、わたしなどは余裕があれば一度頭の中でこれから話そうとする内容を日本語でまとめることにしています。最後に「思いつきメモ」。最近やや怠けていますが、できるだけ手帳を脇に置き、ふと思った言葉が中国語で言えない時にとりあえず日本語でメモしておいてあとで調べませす。脈絡などはまったくありませんが、一つ言えることは自分の頭に浮かんだ言葉なので、リピート率も高いということ。わたしは効率至上主義ではありませんが、この方法はとても定着がよく役に立っています。ふと昔のメモをめくってみたら、かつて若き日のわたしはこう書いていました。「為せば成る＝世上无难事，只怕有心人」

## 4級・3級語順選択・整序問題の解き方

『中国語の環』編集室

4級と3級の筆記問題の第4問は語順選択問題と語順整序問題から構成されています。ここで問われているのは初級段階での基礎的な文法事項を正確に理解できているかどうかですから、学習方法としてはただ正解を得るだけでなしに、与えられた日本語をきちんと中国語に翻訳することができるように心がけるのが得策です。

【4級】第86回（2015年6月）

(1)わたしは上海で一度地下鉄に乗ったことがあります。

我在上海坐过一次地铁。Wǒ zài Shànghǎi zuòguo yí cì dìtiě.

【ポイント】「…で…する」は、「在」＋場所＋動詞＋……」の順に並べて。

(2)わたしはスキーがあなたほど上手ではありません。

我滑雪滑得没有你那么好。Wǒ huáxuě huáde méiyǒu nǐ nàme hǎo.

【ポイント】「スキーが…」は“滑雪滑得…”と動詞“滑”を繰り返す。「Aほど…でない」は“没有A…”。

(3)もうすぐ国庆节です。

快要到国庆节了。Kuàiyào dào Guóqìng Jié le.

【ポイント】動作や状況がまもなく発生することをいうには“快要…了”などの文型を用います。

(4)兄は体育館に卓球をしに行きました。

我哥哥去体育馆打乒乓球了。Wǒ gēge qù tǐyùguǎn dǎ pīngpāngqiú le.

【ポイント】中国語は動作が行われる順に動詞を並べるのが原則です。

(5)彼女はわたしに誕生日プレゼントをくれました。

她送给我生日礼物了。Tā sònggěi wǒ shēngrì lǐwù le.

【ポイント】動詞が二重目的語をとる場合は間接目的語（…に）を前に、直接目的語（…を）を後に。

(6)レポートはまだ書き終わっていません。

报告还没写完。Bàogào hái méi xiěwán.

【ポイント】「まだ…していない」は「还没(有)＋動詞＋…」の文型を用いて。

(7)あなたは9時に帰ってくることができますか。

你九点回得来吗？ Nǐ jiǔ diǎn huídelái ma?

【ポイント】「…することができる」は「動詞＋“得”＋補語」の形式を用いて表します。

(8)彼女は赤いセーターを着ています。

她穿着一件红毛衣。Tā chuānzhe yí jiàn hóng máoyī.

【ポイント】「…ている」は持続を表す助詞“着”を用いて表します。

(9)彼は毎日2時間テレビを見ます。

他每天看两个小时电视。Tā měi tiān kàn liǎng ge xiǎoshí diànshì.

**ポイント** ある動作をどのくらいの時間行うかをいうには動詞の後に時間量を表す語を置き、動詞の目的語はその後に置きます。

(1)きょうの気温はきのうより3度高い。

今天的气温比昨天高三度。Jīntiān de qìwēn bǐ zuótiān gāo sān dù.

**ポイント** 「AはBよりも…である」は“**A比B…**”の文型を用います。

【3級】第86回（2015年6月）

(1)これからはもう二度と寝坊してはいけませんよ。

以后别再睡懒觉了。Yǐhòu bié zài shuì lǎnjiào le.

**ポイント** 「二度と…するな」は“**别再…**”。「寝坊をする」は“**睡懒觉**”。

(2)こんなにたくさんの仕事をわたし一人ではやりきれません。

这么多的工作我一个人干不了。Zhème duō de gōngzuò wǒ yí ge rén gànbuliǎo.

**ポイント** 「やりきれない」は可能補語の否定形を用いて“**干不了**”とします。

(3)両親はわたしをアメリカへ留学させたがっています。

父母想让我去美国留学。Fùmǔ xiǎng ràng wǒ qù Měiguó liúxué.

**ポイント** 「…に…させる」は使役を表す兼語文を用いて表現します。

(4)彼は1か月に1冊しか本を読みません。

他一个月只看一本书。Tā yí ge yuè zhǐ kàn yì běn shū.

**ポイント** 「1冊しか読まない」は「1冊だけ読む」と考えて“**只看一本书**”とします。

(5)わたしは晩ごはんを食べてからお風呂に入るつもりです。

我打算吃了晚饭再洗澡。Wǒ dǎsuan chīle wǎnfàn zài xǐzǎo.

**ポイント** 「…してから…するつもり」は“**打算…再…**”のように表現します。

(6)夏休みまであとどのくらいですか。

离放暑假还有多长时间？ Lí fàng shūjià hái yǒu duō cháng shíjiān?

**ポイント** 「…まであとどのくらい」は時間の隔りを表す介詞“**离**”を用いて。

(7)わたしの携帯電話は妹に壊されてしまいました。

我的手机被妹妹弄坏了。Wǒ de shǒujī bèi mèimei nònghuài le.

**ポイント** 受身文の語順は「主語+“**被**”+行為者+動詞+その他の成分」です。

(8)フランス語はわたしは一言も話せません。

法语我连一句也不会说。Fǎyǔ wǒ lián yí jù yě bú huì shuō.

**ポイント** 「…さえも」という強調表現は、“**连…也…**”の文型を用います。

(9)彼はいま車を買うお金はありません。

他现在没有钱买汽车。Tā xiànzài méiyǒu qián mǎi qìchē.

**ポイント** 「車を買うお金がない」は“**没有钱买汽车**”です。

(10)彼は毎日歩いて駅へ行きます。

他每天走着去车站。Tā měi tiān zǒuzhe qù chēzhàn.

**ポイント** 「ある状態で(…する)」は動詞の後に“**着**”を用いて表します。

## 体育・スポーツ

『中国語の環』編集室(U)

スポーツの種目はあまりにも多く、ここでは到底挙げ尽くすことはできない。以下は日常よく新聞やテレビの報道で目にするものの一部に過ぎない。

なお、オリンピックは“奥林匹克运动会”(Àolínpǐkè Yùndònghuì), 略して“奥运会”(Àoyùnhuì), 金・銀・銅メダルは“金牌”(jīnpái), “银牌”(yínpái), “铜牌”(tóngpái) である。

いくつかわかりますか？

以下はおよその目安です。

| 全部   | 40語以上 | 30語以上 | 20語以上  |
|------|-------|-------|--------|
| 2級以上 | 3級レベル | 4級レベル | 準4級レベル |

|                                   |                 |            |
|-----------------------------------|-----------------|------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 棒球    | bàngqiú         | 野球。        |
| <input type="checkbox"/> 2. 垒球    | lěiqiú          | ソフトボール。    |
| <input type="checkbox"/> 3. 足球    | zúqiú           | サッカー。      |
| <input type="checkbox"/> 4. 排球    | páiqiú          | バレーボール。    |
| <input type="checkbox"/> 5. 篮球    | lánqiú          | バスケットボール。  |
| <input type="checkbox"/> 6. 网球    | wǎngqiú         | テニス。       |
| <input type="checkbox"/> 7. 乒乓球   | pīngpāngqiú     | 卓球。        |
| <input type="checkbox"/> 8. 橄榄球   | gǎnlǎnqiú       | ラグビー。      |
| <input type="checkbox"/> 9. 保龄球   | bǎolíngqiú      | ボーリング。     |
| <input type="checkbox"/> 10. 手球   | shǒuqiú         | ハンドボール。    |
| <input type="checkbox"/> 11. 台球   | táiqiú          | 玉突き。ビリヤード。 |
| <input type="checkbox"/> 12. 门球   | ménqiú          | ゲートボール。    |
| <input type="checkbox"/> 13. 冰球   | bīngqiú         | アイスホッケー。   |
| <input type="checkbox"/> 14. 曲棍球  | qūgùnqiú        | ホッケー。      |
| <input type="checkbox"/> 15. 羽毛球  | yǔmáoqiú        | バドミントン。    |
| <input type="checkbox"/> 16. 高尔夫球 | gāo'ěrfúqiú     | ゴルフ。       |
| <input type="checkbox"/> 17. 体操   | tǐcāo           | 体操。        |
| <input type="checkbox"/> 18. 鞍马   | ānmǎ            | 鞍馬(あんば)。   |
| <input type="checkbox"/> 19. 吊环   | diàohuán        | つり輪。       |
| <input type="checkbox"/> 20. 单杠   | dāngàng         | 鉄棒。        |
| <input type="checkbox"/> 21. 双杠   | shuāngàng       | 平行棒。       |
| <input type="checkbox"/> 22. 撑竿跳高 | chēngān tiàogāo | 棒高跳び。      |

|            |                  |                  |
|------------|------------------|------------------|
| □23. 竞走    | jìngzǒu          | 競歩。              |
| □24. 长跑    | chángpǎo         | 長距離競走。           |
| □25. 短跑    | duǎnpǎo          | 短距離競走。           |
| □26. 马拉松赛跑 | mǎlāsōng sàipǎo  | マラソン。単に“马拉松”とも。  |
| □27. 田径赛   | tiánjìngsài      | 陸上競技。            |
| □28. 接力赛   | jiēlìsài         | リレー競走。           |
| □29. 跨栏    | kuàlán           | ハードル競争。          |
| □30. 跳高    | tiàogāo          | 高跳び；走り高跳び。       |
| □31. 跳远    | tiàoyuǎn         | 幅跳び。             |
| □32. 三级跳远  | sānjí tiàoyuǎn   | 三段跳び。            |
| □33. 跳伞    | tiàosǎn          | スカイダイビング。        |
| □34. 太极拳   | tàijíquán        | 太極拳。             |
| □35. 功夫    | gōngfu           | カンフー；中国拳法。       |
| □36. 柔道    | róudào           | 柔道。              |
| □37. 空手道   | kōngshǒudào      | 空手。              |
| □38. 举重    | jǔzhòng          | 重量挙げ。            |
| □39. 击剑    | jījiàn           | フェンシング。          |
| □40. 拳击    | quánjī           | ボクシング。           |
| □41. 链球    | liànqiú          | ハンマー投げ。          |
| □42. 铁饼    | tiěbǐng          | 円盤投げ。            |
| □43. 标枪    | biāoqiāng        | 槍投げ。             |
| □44. 铅球    | qiānqiú          | 砲丸投げ。            |
| □45. 赛车    | sàichē           | 自転車・オートバイ・自動車競技。 |
| □46. 赛马    | sàimǎ            | 競馬。              |
| □47. 赛艇    | sàitíng          | ボートレース。競艇。       |
| □48. 射箭    | shèjiàn          | アーチェリー。          |
| □49. 十项全能  | shíxiàng quánéng | 十種競技；デカスロン。      |
| □50. 铁人三项  | tiě rén sānxiàng | トライアスロン。         |
| □51. 滑雪    | huáxuě           | スキー。             |
| □52. 滑冰    | huábing          | スケート；アイススケート。    |
| □53. 旱冰    | hànbīng          | ローラースケート。        |
| □54. 滑板    | huábǎn           | スケートボード。         |
| □55. 游泳    | yóuyǒng          | 水泳。              |
| □56. 蛙泳    | wāyǒng           | 平泳ぎ。             |
| □57. 自由泳   | zìyóuyǒng        | 自由形。             |
| □58. 仰泳    | yángyǒng         | 背泳ぎ。             |
| □59. 蝶泳    | diéyǒng          | バタフライ。           |
| □60. 跳水    | tiàoshuǐ         | 飛び込み。            |

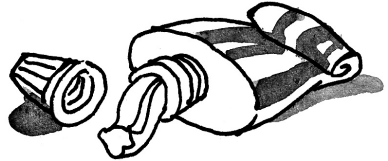
### 絵で見る慣用語(6)

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



**鸡蛋里挑骨头 jīdàn li tiāo gǔtōu**  
卵の中から骨を探す；意地悪くあら探しをする。箸(はし)の上げ下ろしにもうるさく小言を言う。“鸡蛋里找 zhǎo gǔtōu”とも。



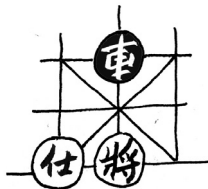
**挤牙膏 jǐ yá gāo**  
練り歯磨きを搾り出す；(外から圧力を加えられて) 少しずつ言い出す。しぶしぶ本音を吐く。多くは迫られて不承不承過ちを認める場合に用いる。



**见风(就)是雨 jiàn fēng (jiù) shì yǔ**  
ちょっと風が吹いただけで雨が降ると決め込む；早合点する。軽率に判断し行動するたとえ。“听风就是雨”(tīng fēng jiù shì yǔ)とも。



**见世面 jiàn shì miàn**  
世間を知る；経験を積む。見聞を広める。  
**经风雨，见世面。**風雨にさらされ、世の中を知る。

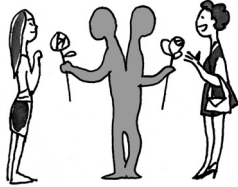


**将一军 jiāng yī jūn**  
王手をかける；相手を追い詰める。難題をもちかけて困らせる。やり込める。中国将棋で相手の“将”(jiàng) または“帅”(shuài) を攻めて動かざる得ないようにすることから。

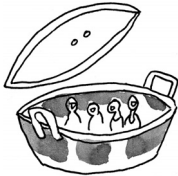


**嚼舌头 jiáo shé tóu**  
無責任なうわさ話をする。また、つまらぬことで言い争いをする意にも。  
**背后嚼舌头。**陰でうわさ話をする。  
**没工夫跟你嚼舌头。**君なんかとつまらぬ口争いをしている暇はない。





**脚踩两只船 jiǎo cǎi liǎng zhī chuán**  
 二隻の船にまたがる；二股をかける。  
 あっちについたりこっちについたりする。また、考えを決めかねてしばらく様子をみる意にも。“脚踏 tà 两只船”とも。



**揭盖子 jiē gài zi**  
 蓋（ふた）をとる；内情を暴く。矛盾や問題点をはっきりさせる。  
 我们要揭盖子，不能捂盖子。真相をはっきりさせるべきで、覆い隠してはならない。



**九牛二虎之力 jiǔ niú èr hǔ zhī lì**  
 九頭の牛と二匹の虎に匹敵するほどの力；普通では考えられないほどの大きな力。非常に強い力。大力（たいりき）。ばか力。



**绞尽脑汁 jiǎojìn nǎozhī**  
 脳みそを絞る；ありったけの知恵を出す。精一杯考える。知恵を絞る。頭をひねる。思案をめぐらす。単に“绞脑汁”とも。



**井水不犯河水 jǐngshuǐ bù fàn héshuǐ**  
 井戸の水は川の水を妨害しない；おのおのその分を守り，他を犯さない。互いに他の領分を侵さない。お互いに干渉しない。



**决雌雄 jué cixiong**  
 雌雄（しゆう）を決する；戦って勝ち負けを決める。優劣を決める。  
 愿一战，决雌雄。一戦を交えて，勝敗を決しよう。

## “虽然…，但是…” と “虽然…”、“但是…”

日本中国語検定協会評議員・文京学院大学 魯 曉琨

“虽然…，但是…” “虽然…，…” “…，但是…” はいずれも逆接を表す複文の構文です。文法書では，“虽然”について、ふつう文の後節で“但是”などと呼応させると書かれており，“但是”について、ふつう文の前節で“虽然”などを用いると書かれていますが、三者の違いについては触れていません。ここでは三者の違いを考えたいと思います。

“虽然…，但是…” の逆接を理解するには、因果関係から考えると、分かりやすいです。たとえば、Xさんという人がアメリカで20年生活していたとしたら、通常は「Xさんは英語が上手なはずだ」とか、「Xさんはアメリカ人の友達がたくさんいるだろう」とか、「Xさんはアメリカ文化をよく知っているだろう」などと思われるはずです。事実が一般的な認識と同じであれば、因果関係の複文で表します。

(1) a 他在美国生活了二十年，所以他的英语很好。

b 他在美国生活了二十年，所以他有很多美国朋友。

c 他在美国生活了二十年，所以他非常了解美国文化。

反対に、事実が一般的な認識と異なる場合，“虽然…，但是…” で表します。

(2) a 他虽然在美国生活了二十年，但是他不太会说英语。

b 他虽然在美国生活了二十年，但是他一个美国朋友也没有。

c 他虽然在美国生活了二十年，但是他根本不了解美国文化。

例(1)と(2)の比較から分かるように、因果関係は前節の前提から一般的な認識と同じ結果が出たことを表します。一方，“虽然…，但是…” は前節の前提から一般的な認識と異なる結果が出たことを表し、ここで「逆因果」と呼びます。

(3) 虽然他说确有其事，但是我不相信。

(彼は事実だと言うが、私は信じない。)

例(3)のような文は「逆因果」で理解しやすいが、例(4)のような文はどうでしょうか。

(4) 这件衣服虽然很贵，但是质量很好。

(この服は値段が高いが、質がいいです。)

この文は明らかに例(5)のような因果関係が成り立たちません。

(5) \* 因为这件衣服很贵，所以质量不好。

例(4)を理解するために、例(6)から考えましょう。

(6) a 这件衣服虽然很贵，但是我还是买了。

b 这件衣服虽然很贵，但是质量很好，我就买了。

例(6) a は一般的な認識と異なる結果です。即ち、服が高いと思ったら、通常は買わないが、結果は逆で買ったのです。なぜ、買ったのか。(6) b ではその理由として“质量很好”を付け加えたのです。ここで、聞き手も買ったという結果を知ってい

るなら、“我就买了”は省略できます。たとえば、妻が買った服の値札を見た夫が「高いなあ」とコメントしたケースにおいては、妻は“我就买了”が省略された例(4)を用いることができます。妻はわがままで“这件衣服虽然很贵，但是我喜欢”と言ってもかまいません。このように、例(4)においても、“虽然…，但是…”が「逆因果」を表すというロジックは成り立ちます。

では、ここから“虽然”、“但是”は“虽然…，但是…”との共通点や相違点を見てみましょう。

“虽然”は“虽然…，但是…”と同じく「逆因果」という意味を表します。また、例(8)のように“虽然”を文の後節に用いてもかまいません。たとえば、

(7)这孩子虽然年龄不大，懂得的事情可不少。

(この子は年端もゆかないのに、物事がよく分かっている。)

(8)她还没有回信，虽然我已经发过三次邮件。

(彼女からまだ返事がない。私が三回もメールを送って催促したのに。)

一方、“但是”も「逆因果」を表す文脈で用いることができますが、「逆因果」の度合いが弱くなります。たとえば、

(9)他并不同意哥哥的话，但是他不想再跟哥哥辩论了。

(彼は兄の言葉に同意できたわけではなかったが、もう兄と言い争う気もしなかった。)

例(9)の前節に“虽然”を加えてもいいです。ただし、“虽然”を加えると、「逆因果」の度合いが強くなります。

しかし、“但是”は“虽然…，但是…”と以下の2つの相違点が見受けられます。

一つ目は“但是”のほうが「逆因果」ではない逆接文にも用いることができるという点です。

(10)要充分肯定成绩，但是也要指出缺点。

(成果を十分に評価する必要があるが、欠点を指摘する必要もある。)

(11)她温和地看了他一眼，但是马上又把眼光掉开了。

(彼女は彼に穏やかな一瞥をくれたが、すぐまた眼をそらせた。)

例(10)(11)は「逆因果」ではなく、ただ、後節は前節に反する内容を示すだけなので、前節に“虽然”を用いてはいけません。

二つ目は“虽然…，但是…”の前節は必ず事実であるが、“但是”の前節は事実でなくてもいいという点です。

(12)圣诞卡上写着：“大伯伯，圣诞节你也也许忘了我们，但是我们没有忘了你！”

(クリスマスカードに「おじさん、クリスマスだというのに、おじさんは私たちのことを忘れたかもしれませんが、私たちはおじさんのことを忘れていませんよ。」と書いてあります。)

例(12)において、“你也也许忘了我们”は事実ではなく私たちの想像にすぎません。もし、ここで“你虽然忘了我们”と書くと、おじさんが本当に私たちを忘れているという事実が存在することになります。

## 単語の長さ

関西大学 沈国威

日本語の単語は、2～6音節に集中している。これは和語、漢語、外来語を含めての一般的な長さである。語形がこの長さを超えると圧縮がかかる（但し和語には圧縮が効かないため、漢語、外来語が長さを調整する役割を担っている）。漢字語について言えば、「危機、期間、大学」のように2音節から4音節までである。対して1音節1字の中国語では、2音節、つまり2字語が、一番安定している長さである。1字では短すぎ、4字では語の意識が薄れるため、2字語は中国語母語話者にとって一番単語らしいということになる。一方、中国語は3000年前の『詩経』の時代から2+2の4字リズムが主流で、1+3や3+1は一般的ではない。これは、現代中国語の「韻律制限」という現象に繋がる。例えば以下のような場合、3字表現の多くは成り立たない。（?は不自然、\*は受け入れられないことを表す）

|    |      |      |      |    |      |      |      |
|----|------|------|------|----|------|------|------|
| 政改 | *政治改 | *政改革 | 政治改革 | 购票 | ?购车票 | *购买票 | 购车票  |
| 访日 | ?访日本 | *访问日 | 访问日本 | 伟人 | *伟人物 | *伟大人 | 伟大人物 |
| 读报 | 读报纸  | *阅读报 | 阅读报纸 | 白发 | 白头发  | *白色发 | 白色头发 |

興味深いことに、このような字数（音節ではない！）による制限は、日本語、韓国語、ベトナム語にも観察される。

現代中国語では韻律制限を避けるため、リズムを整え、単語の長さの調整が行われる。言い換えれば1つの概念に長さの異なる語が用意されているということである。話者は必要に応じて、それを選択する能力が求められる。単語の長さを調節する能力は中国語の語彙力そのものであると言っても過言ではない。以下、長さの調整を品詞別に見てみよう。

**名詞** 外国人用の学習語彙リストには1音節の名詞が、300ほど収録されており、名詞全体の8%未満である。1音節の名詞は身近なものを表わす語が中心で、使用頻度も高いが、韻律制限や音形の短小さによる誤解を避けるため、実際の使用では、2音節に延ばす。呂叔湘らが指摘している「**凑音节**」である。筆者は中国語の名詞には、長単位と短単位があると思う。短単位は基本形であるが、単独のままで使いにくい場合が多く、2音節に拡張しなければならない。具体的な方法としては、“老、阿”などの接頭辞や“子、头、边、儿”などの接尾辞を付けることなどがあげられる（但しこれらの旧接頭辞は造語力を失い、もはや新しい言葉を作れない。現代中国語では日本語の接尾辞「品、料、族」を新語の創出に利用している）。そのうち話し言葉では“一子”が一番重要で、“桌、椅、被、褥”など“子”を従え、長単位にできる字は300以上にのぼる。この他に、“宝贝、翅膀、春天、福气、嘴唇”など決まった字で2音節に拡張する語も多い（下線の字は語形拡張用で、特に意味はない）。そのまま使いにくい短単位は、新しい単語を作りだすのに重宝される。“杯”を例に説明しよう。“杯”は、“子”を従え、“杯子”のように使う。一方、他の成

分に後接し、“茶杯、酒杯、保温杯、世界杯”のように合成語を作り出す。名詞の短単位を覚えただけではまだそれを使いこなせていないことを自覚しなければならない。

**動詞** 同じく外国人用の学習語彙リストには800前後の1音節動詞が収められており、動詞全体の20%以上を占めている。1音節語の中で動詞の占める割合が最も多い理由としては目的語や助詞と一緒に使用することが多く、よって語形短小の弱点がある程度解消されることが考えられる。それでも1音節動詞は、下記のように2音節動詞と対応関係を持つものが非常に多い。

愛-爱恋／办-办理／帮-帮助／背-背诵／比-比较／变-变化／长-成长／唱-歌唱／打-殴打／定-决定／改-改变／管-管理／记-记忆／哭-哭泣／买-购买／卖-贩卖／睡-睡眠／死-死亡／投-投掷／添-增添／学-学习／站-站立

動詞の語形拡張には、韻律制限を避けるためという理由以外に、動詞を名詞に変える文法的な目的もある。また2音節動詞は文章語という文体的特徴も獲得したのである。1音節動詞の拡張は並列構造という造語法によって実現される場合が多い。つまり1音節動詞に同訓の字(不自由語素)を付け、並列構造の複合語を得る。この点に関しては前号の「字から詞へ」を合わせてご覧いただければ幸いである。もちろんすべての1音節動詞が2音節に拡張できるわけではない。“熬扒蹦憋搓叨抖”などの口語性の強いものは、対応する2音節動詞はない。一方、1音節動詞が、複数の2音節動詞に対応する現象も多く観察される。例えば、“改”は、“改良、改善、改革、改变……”などに対応する。“改”を軸に類義語群を形成するが、個々の語の間の意味上の違いよりそれぞれの目的語との組み合わせ(搭配)が重要である。

**形容詞** 現代中国語の1音節の形容詞は240語余りで、形容詞全体の15%未満である。1音節形容詞の語形拡張は、下記のように動詞の場合と同じく、基本的に並列構造を持ち、軸字を中心に類義語群を形成する。こちらも修飾先の名詞との組み合わせが習得上のポイントになる。

长：长久 长远 漫长 冗长 悠长 深长 修长

大：伟大 高大 广大 巨大 强大 重大 壮大 宏大 宽大 庞大 盛大 远大

贵：昂贵 宝贵 富贵 高贵 珍贵 尊贵 贵重

新：新鲜 崭新 清新 新颖 新奇

重：重要 重大 严重 沉重 慎重 笨重 繁重 贵重 隆重 深重 郑重 庄重

名詞、動詞、形容詞の他に副詞にも下記のような1—2音節間の対応関係を持つものがある。

曾-曾经／重-重新／凡-凡是／更-更加／胡-胡乱／互-互相／将-将要／较-比较／恐-恐怕／暂-暂且／稍-稍微／已-已经／尤-尤其／竟-竟然／常-常常

以上のように中国語の単語は、長さを調節しなければならないが、これは意味というより韻律上の要請に基づくものであり、中国語の重要な特徴の1つである。外国人用の学習語彙リストもこのような特徴を反映すべく作成しなければならないと考えている。

## 中国人に好まれる数字語と嫌われる数字語

日本中国語検定協会評議員・共立女子大学 李錚強

日本人が奇数を好むのとは逆に、中国人は偶数を好むと一般的に考えられている。現代中国人は婚礼の日取りは必ず偶数日を選ぶ。旧暦も曜日も偶数日であることが理想的である。2015年8月8日（土）はどこの結婚式場も半年前までにすでに予約が一杯になったそうである。また、結婚祝いの祝儀は、偶数は割れるから奇数の金額を贈るという日本の習慣とは正反対に、必ず偶数の金額を贈る。“成双成对 chéngshuāng-chéngduì”（対になる）になるからである。この発想から不祝儀に用いる香典は奇数の金額に決まっている。

偶数の中でもとりわけ“八”が好まれる。日本人にも「八」が愛用されているようだが、「未広がり」だから縁起がよいという認識は中国人にはない。中国人が“八”を好む理由は広東語で“八”を発音すると“发”に似ていて、“发财”を連想させ、「儲かる」「繁盛する」にイメージが繋がるということで、改革開放後、縁起のよい数字として広東地域で愛用され始め、全国に広がってきた。現在、中国のどこに行っても末端の数字に「8」を付けた車のナンバープレートや電話番号が最も多く見られるのは広東語に由来する新しい社会現象である。

“六”も中国人に好まれる数字である。これは“六”の発音が“福fú、禄lù、寿shòu”の“禄”の広東語の発音と似ているからである。また、中国人の酒席での遊びに“划拳huáquán”という拳打ちがあるが、その掛け声に“六六顺liùliùshùn”という句がある。“六”は順調というニュアンスに繋がる数字である。

偶数の“四”は古くからプラスイメージを伴う数字として認識されている。北方の農村部では結納を交わす場合、“四彩礼sìcǎilǐ”という四種類の品を贈る風習が続いている。ただし“四”は“死”と“谐音xiéyīn”（発音が同じまたは似ている）なので、「死」を連想させるため、現代中国においては車のナンバーや電話番号として「4」を忌み嫌う人もいる。

“谐音”の点から見れば、“九”に対する日本人と中国人の感覚は異なっているようである。“九”は日本人にとっては「苦」と同音のため嫌われる数字だが、中国人にとっては“久”と同音のため、“天长地久tiāncháng-dìjiǔ”（いつまでも変わらない）という成語が表しているニュアンスを連想させるのが代表的な例で、特に女性に人気のある数字である。

中国のどこの商店に入っても“250元”という値札は恐らく見かけないだろう。それは“二百五”という数字語が「間抜け」または「半可通」として昔から広く使われているからである。最近、“二”を用いて合成された新しい数字語が流行っている。“你真二”“二货”“犯二”とそれぞれ表現が多少違うが、いずれも「間抜け、そそっかしい」という口語的な言い回しである。

### 西安講演会から

去る10月30日に中検の海外試験会場の一つである西安交通大学国際教育学院において講演会が実施され、講師として上野理事長が日本における中国語教育の現状とその中における中国語検定試験の位置について話した。参加者は当の交通大学のほか近隣のいくつかの大学において外国人に対する中国語教育に携わっておられる先生方や大学院生、日本人留学生等を中心に90余名であった。(中検事務局記)

#### 【講演要旨】

中検は1981年秋に第1回の試験が実施され、この11月に第87回に達する。当初は年2回、現在は年3回で累積志願者数はおよそ100万人である。

運営母体は一般財団法人日本中国語検定協会で理事10名、評議員20名、監事2名を中心に運営に当たり、日常の事務は専門の職員が処理している。理事以下の役員はいずれも日本の大学、高等学校、専門学校等において中国語教育に携わっている人たちである。

試験は級別に実施され、大学において第二外国語(通常1回90分授業、週2回)として半年程度の履修者を対象とする準4級、同1年履修4級、2年履修3級から、高度の中国語運用能力を有する実務家、通訳・翻訳業務従事者等を対象とする1級まで6段階に分かれている。

中検を創設した1981年という年は「文革」後の中国が改革・開放政策のもとに盛んに外国との経済や文化の交流を始めた時期で、日本においても中国語の必要性が急速に高まり、学習者も急増していた。ただ、この状況に対応するための準備が不足していたため中国語教育の現場は一種の混乱状態を呈した。私たちはこの混乱状態を憂慮し、何をどこまで教えればよいか、どこまで学べばよいかについて緩やかな目標を示し、その成果を測定、証明することによって教育者、学習者を支援することを目指してこの仕事に着手したのである。

年3回の試験は国内50余会場のほか、海外にも会場を設けて実施されている。年間受験者数は3年前に6万人に達したが、以後は減少傾向にあり、現在は約4万人である。減少の主な原因は日中両国間の政治的緊張の高まりによる学習者の中国語離れにあると考えられるが、幸いこのところの緊張緩和ムードを反映してか学習者数に回復の兆しが見られ、ここ2回の受験者数はほぼ前年同期並みであり、今後上昇に転じることが期待される。

近年の著しい傾向として準1級、特に1級の受験者に占める日本国内在住の中国語ネイティブの比率が高まっていることが挙げられる。彼らが中国語話者でありながら中検に挑戦するのは、中検の合格証書がただ中国語を使えるというだけでなしに、日中、中日の翻訳・通訳能力を有することの証明にもなるからである。

## 【主な質問と回答】

### ——中検とHSKはどう違うか。

HSKは中国において仕事をしたり留学して勉強する人を主たる対象として実施される試験で、それぞれに言語を異にする世界各国の人々が同時に受験するため、個別の言語を介さずに中国語で出題し中国語で答えるという形式を採用している。

一方、中検は受験資格として国籍を問うことはないが、日本語を十分に解することを前提として日中、中日間の翻訳・通訳能力の測定に重点をおいて出題される。

以上のように中検とHSKは特徴を異にして互いに長短を補い合う関係にある。HSKは中国での言語生活能力の測定に適し、中検は日中間の実務や翻訳・通訳能力の測定に適していると位置づけることができるだろう。

### ——出題にはどのような人が当たっているのか。

年3回の試験問題は回ごとに設けられた出題委員会が原案を作成する。委員会のメンバーは日本国内で中国語教育に携わっている専門家で、それぞれ複数の日本語ネイティブと中国語ネイティブが含まれている。

作成された原案は別に設けられた検討委員会（この委員会のメンバーは出題の連続性を保つために固定されている）において検討され、疑義が生じた場合は両委員会で合議のうえ最終決定がなされる。

### ——回ごとに新しい問題を作成したのでは、難易度にバラつきが生じないか。

その点は頭の痛いところである。慎重に検討を重ねたうえで出題しているが、時に平均点に大きな差が生じ、やむなく合格基準点を調整している。

検証済みの問題をプールしておき、これを複数回使用する方式を採用すれば平均点は一定に保つことができるが、中検は学習者の便宜を考慮して、試験終了後の問題持ち帰りを認めるとともにホームページ等においてただちに問題と解答を公開しているため、予め難易度を測定することは難しい。

——出題の大半が与えられた選択肢の中から正解を選ぶ形式が採用されているが、この形式では、例えば本日の資料にある3級第4問のような場合、与えられた語句を並べ替えてどの語句が [ ] 内に入るかを問うだけでは、並べ方が誤っていても、たまたま正答が得られることがあるのではないか。

確かにその可能性は残る。望ましいのは全文を完成させることであるが、数千枚の答案の採点を短時日に終えるには一部にこのような形式の出題を採用せざるを得ないのが現状である。

ただし、この出題形式の欠点をカバーするために、3級の場合、第5問において全文を中国語に訳して記述させる問題を5題課している。

『読者の広場』への投稿を募集しています。中国語に関すること、検定試験に関することなど、400字～1,000字程度でお寄せください（Eメール、郵便ともに可）。採用された方には、記念品を進呈します。